

第8回産構審地域経済産業分科会

中小企業における現状と課題 各種施策の必要性について

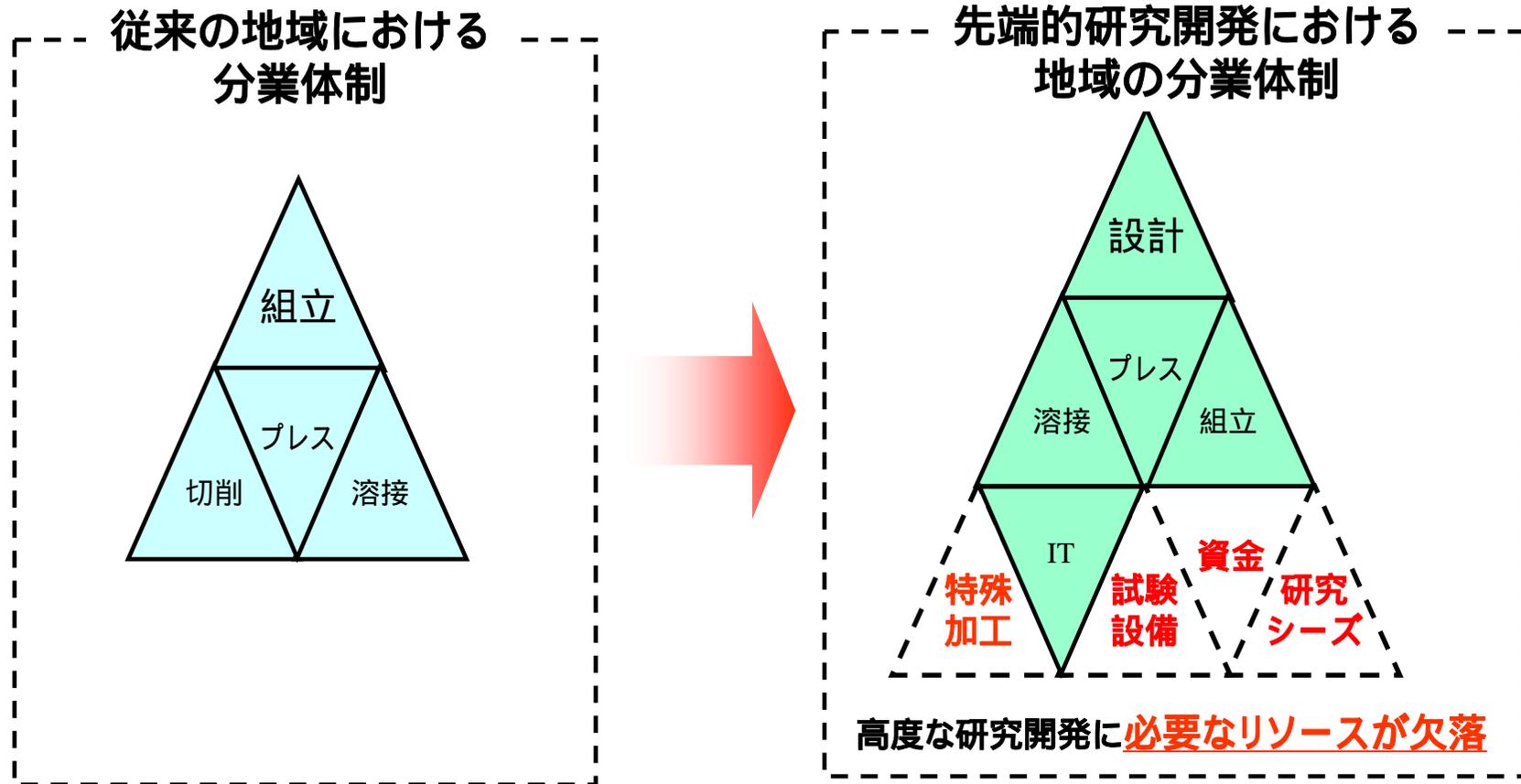
平成19年12月12日
東成エレクトロビーム株式会社
上野 保

■ プレゼン概要

- ・中小企業を取り巻く現状
- ・地域イノベーション協創プログラムの必要性
 - ・研究機関同士の連携による研究開発資源の相互活用の必要性
 - ・ワンストップサービスによる相談窓口の整備の必要性
 - ・リスクの高い産学連携による共同研究開発への資金支援の必要性
- ・中小企業からの提案

■ 中小企業を取り巻く現状

新規事業展開を行うためには、研究開発資源、新たなパートナー(企業)など、さまざまな“**リソース**”が不足

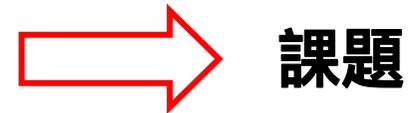


中小企業の研究開発では、**リソース獲得のプロセスが重要**
また、リソース獲得のための**支援策も必要**

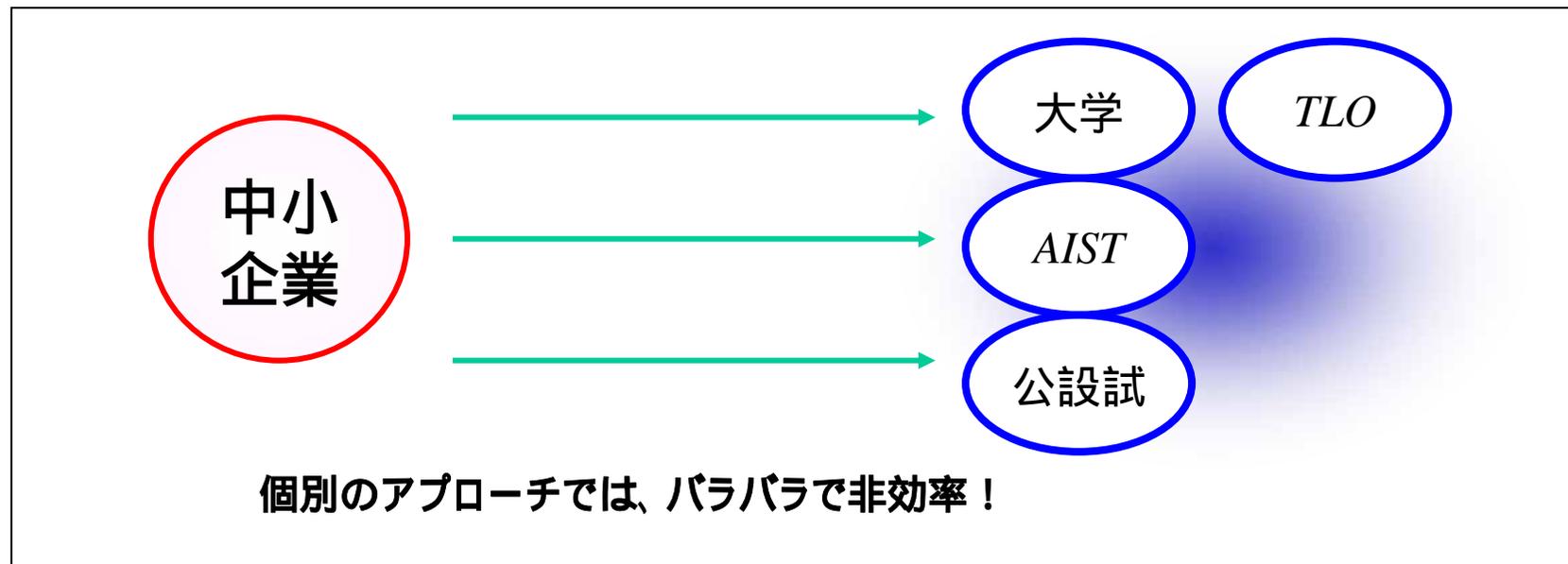
■ 研究機関同士の連携による研究開発資源の相互活用の必要性

企業が単体で研究開発資源を探すのは

- ・シーズを探索する**コストの増加**
- ・**人材不足**の環境の中での人的資源の投入
- ・**シーズ情報が制限**される



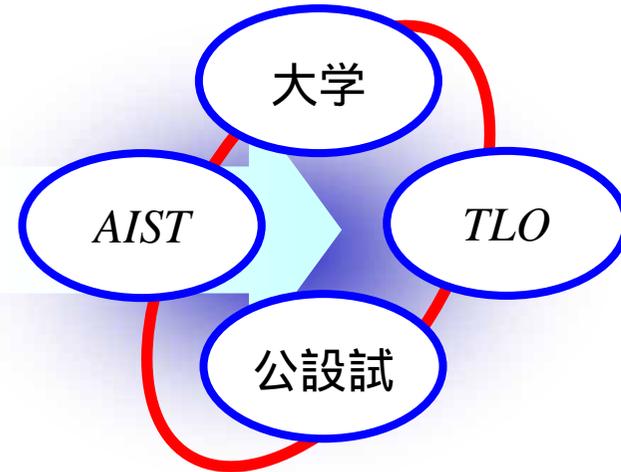
課題



集約された価値や情報の一元的な提供が求められる。

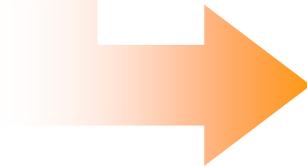
■ 技術的問題を抱える企業へのワンストップサービスによる
相談窓口の整備の必要性

求められるスタイル



小コスト、短時間で多くのリソースが得られる

短時間で研究実施体制を構築



競争力を維持・向上する必然性

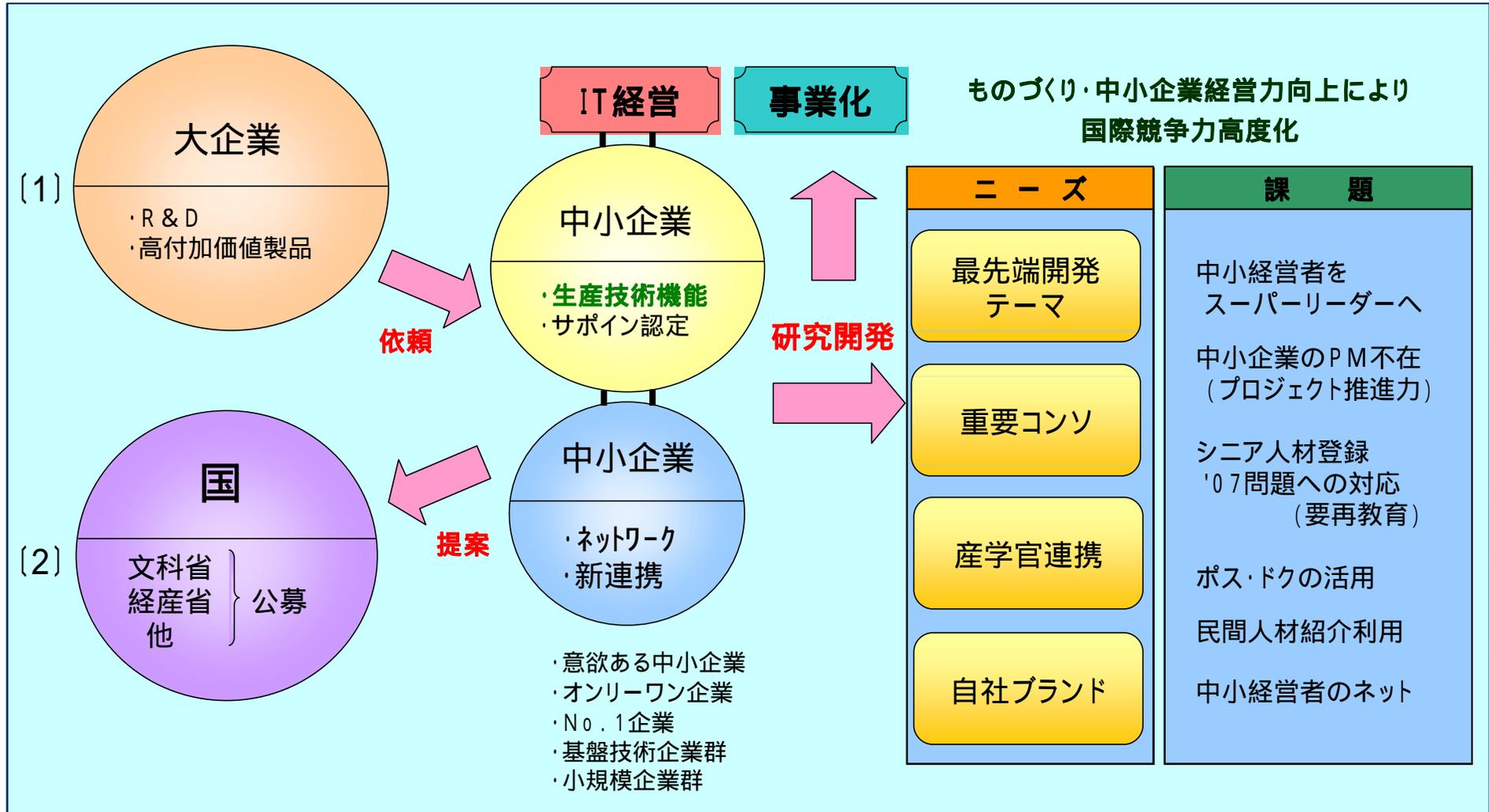
研究開発の加速の必要性



早期に知財権化し事業を防衛する必然性

早いスパンの市場ニーズに対応することが不可欠

■ リスクの高い産学連携による共同研究開発への資金支援の必要性

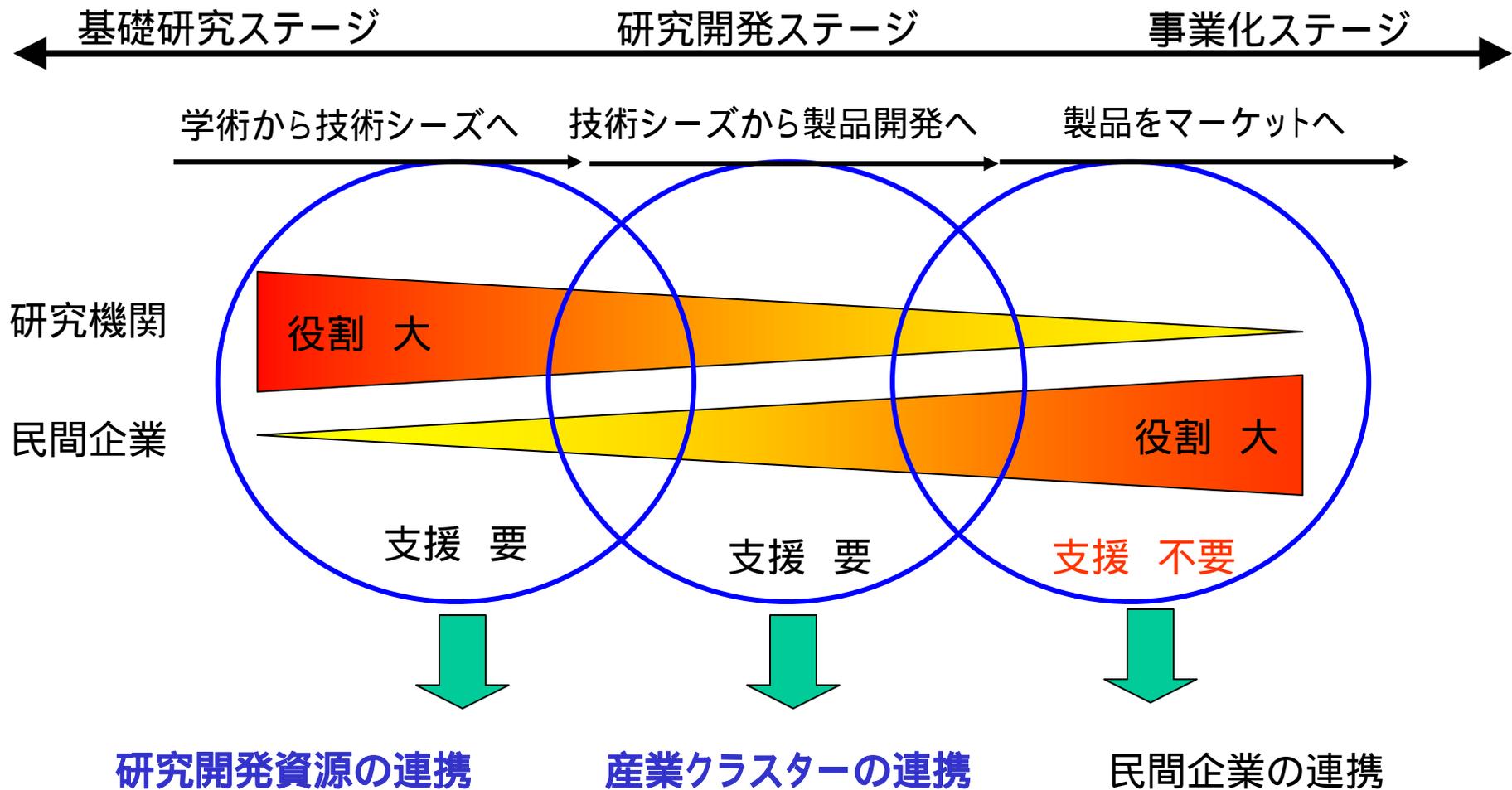


経営課題を解決する資源は未だに不足

中小企業からの提案

- ・産業クラスター間の連携の必要性
- ・効果的な研究資源共同体の活用方法
- ・産業クラスター間連携による『R & D - 事業化ブリッジの構築』
- ・北陸ものづくり創生プロジェクトとの連携について【参考事例】

中小企業からの提案

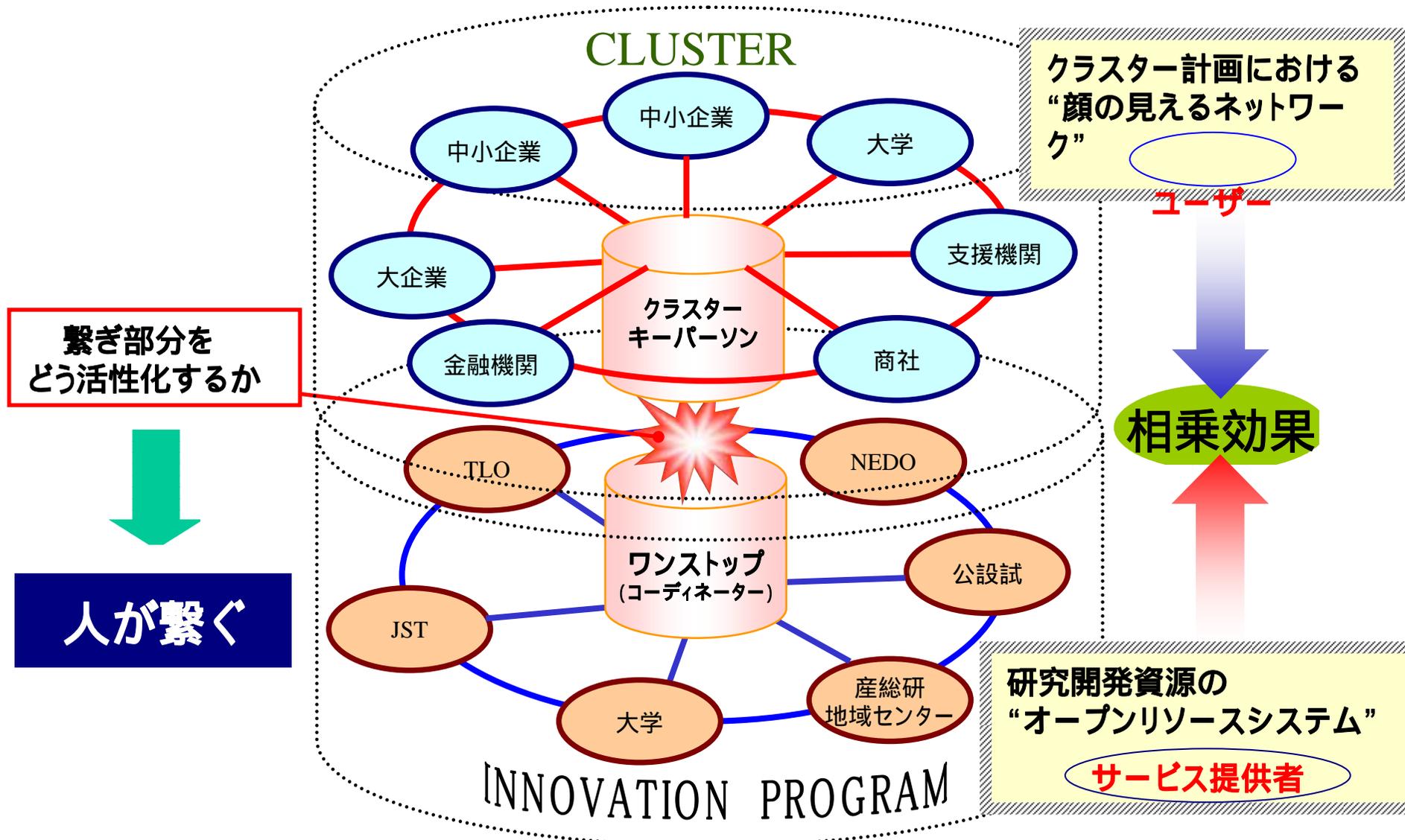


基礎研究・研究開発から事業化までをつなぐ「ブリッジ」が必要

クラスター間連携による「ALL JAPAN」での実施が効果的

■ 特定分野に特化した「研究開発資源の連携体(共同体)」を活用する

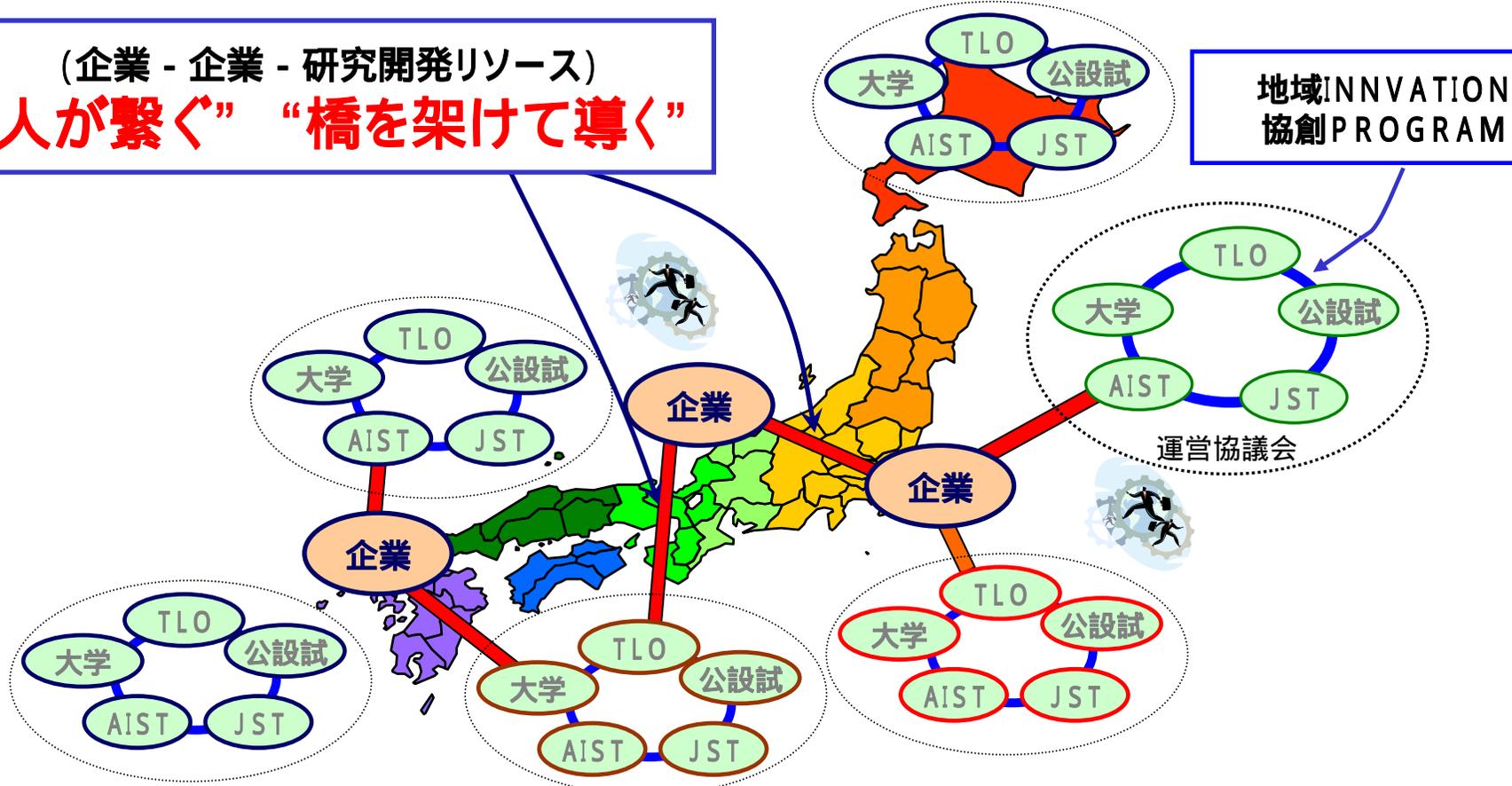
- ・地域の研究機関等が連携した、研究開発資源共同体は**極めて有効**
- ・重要なポイントは、外部からの積極的な利用を促すこと(利用しやすさ)



■ 産業クラスター間連携による「R & D - 事業化ブリッジの構築」

- ・最適な研究開発資源を、最適な手法にて企業群へと「人」が繋ぐ(ブリッジ)
『ALL JAPAN』で共同研究体のフォーメーションを高質化する
- ・キーワードは「**活きの良い人材の活用・流動化**」
産業界における**(現役の)キーパーソン**を効果的に活用
(例えば、産業クラスター連携コーディネーター(仮称)の配置)

(企業 - 企業 - 研究開発リソース)
“人が繋ぐ” “橋を架けて導く”



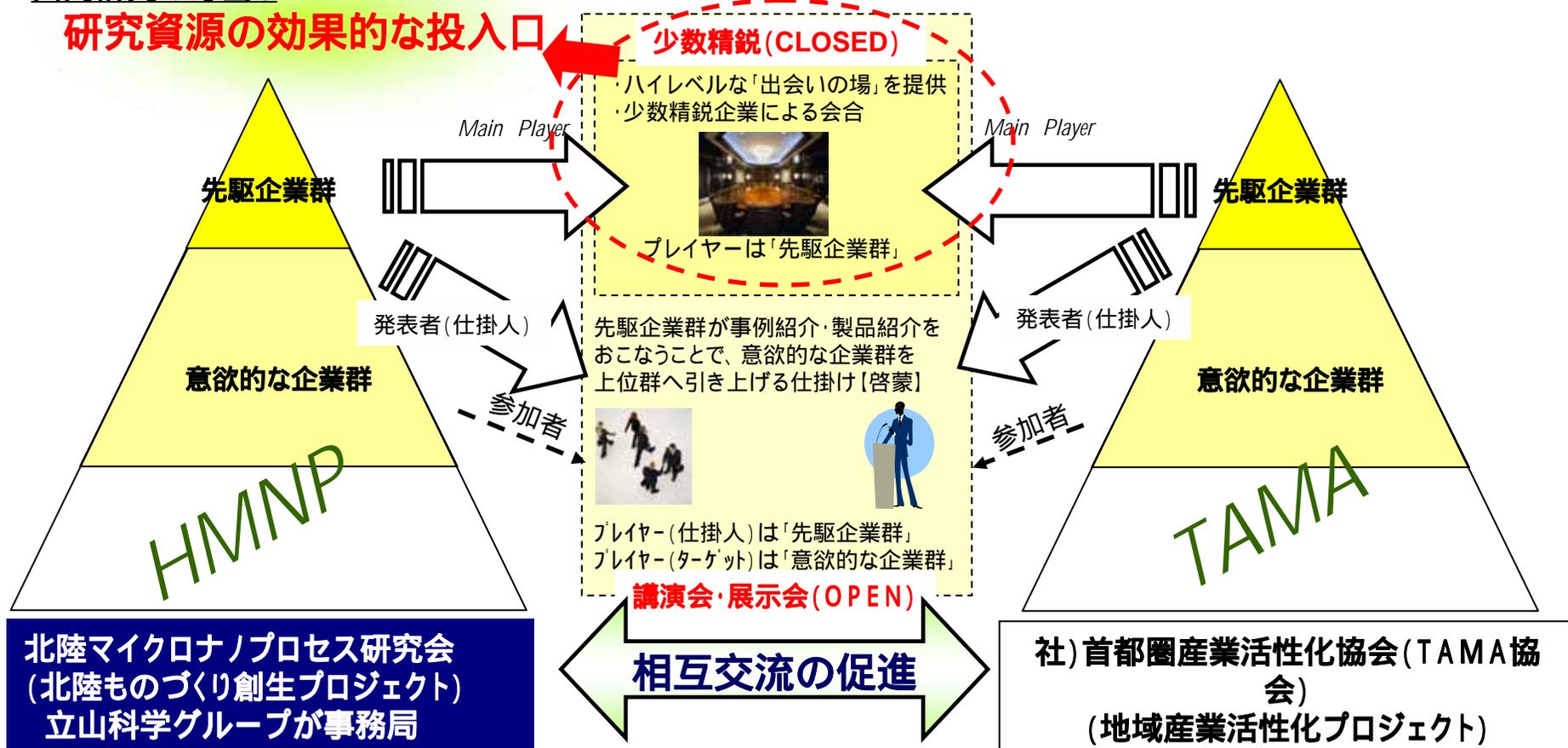
■ 【参考事例】 北陸ものづくり創生プロジェクトとの連携について

- ・平成19年11月19日 北陸ものづくり創生プロジェクトのナノテク分野、先端複合材料分野の研究会が主催するフォーラムに参加。
- ・異分野融合領域を含めた研究開発には、**相互交流(クラスター間連携)が必要不可欠と確認。**
- ・「**企業人材を中心とした、頻繁なクラスター間交流が重要。**」



共同研究の芽出し

研究資源の効果的な投入口



■【参考事例】 北陸ものづくり創生プロジェクトとの連携について

- ・北陸プロジェクトとの連携の特徴は、**民間の企業間連携**がベース
TAMA: 東成エレクトロビーム(首都圏産業活性化協会:TAMA協会)
北陸: 立山科学グループ(北陸マイクロナノプロセス研究会)
- ・今後は、両企業をコアとする企業群での**広域連携**を推進予定。

